

## 戦没者追悼記念日と独立記念日

2009年4月30日 アシェル・イントレーター

昨日イスラエルでは戦没者追悼記念日で、私たちはテロリストによって命を失った人々や国を守るため戦没した人々を追悼しました。今日は独立記念日を祝いました。この連続した二つの祝日は、イスラエルの苦しみと贖いのしるしなのです。

イスラエルの苦しみと贖いとイエシュア(イエス)の死と復活には深い、不思議な関係があります。このつながりは聖書的かつ霊的であり、神によって定められたご計画なのです。この概念はクリスチャンにとってはそれほど驚くものではなく、イエシュアの死と復活に各信者がつながっているという信仰のあり方に似ているからです。

**ローマ 6:5「もし私たちが、キリストにつき合わされて、キリストの死と同じようになっているのなら、必ずキリストの復活とも同じようになるからです。」**

各信者の生まれ変わりはイエシュアの死と復活の延長であり完遂なのです。同じように、イスラエルの離散と回復はまたイエシュアの死と復活の延長であり完遂なのです。イエシュアは世の救い主であり、誰でも主を信じるならば、代理経験として主の死と復活を味わうのです。イエシュアはイスラエルの王であり、私の国は望むと望まざるにかかわらず主の死と復活の道筋を辿るのです。

**ホセア 6:2「主は二日の後、私たちを生き返らせ、三日目に私たちを立ち上がらせる。私たちは、御前で生きるのだ。」**

この御言葉はイスラエルの子どもたちのことを語っていますが、これはメシアが三日目に死から甦えなければならないという新約の主張の基礎部分でもあります(ルカ 24:46)。墓中での二日間の後イエシュアが復活することは、2000年の離散の後イスラエルが回復したことと並行しています。

これはエゼキエルが干からびた骨の預言が死者の復活とイスラエル国家の復活両方を語っている理由でもあります。

**エゼキエル 37:12「わたしの民よ。見よ。わたしはあなたがたの墓を開き、あなたがたをその墓から引き上げて、イスラエルの地に連れて行く。」**

もしメシアが死から復活したのならば、主を信じる者は皆復活するはずです。もしメシアが死から復活したのならば、主が王となることが定められた国は回復するはずです(ヨハネ 18:37、19:19)。

このパターンは聖書を通して繰り返されます。メシア的な王ダビデが罪を犯した時、民は苦しみました(II サムエル 24:17)。イエシュアが誕生時にエジプトに逃れたのは、イスラエルの出エジプトに対

する成就でした(マタイ 2:15、ホセア 11:1)。イスラエルの地に対する攻撃はメシアの受難と比較され  
ます(詩篇 129:3)。

イスラエルの苦しみはイエシュアの十字架と並行しています。この驚くべきつながりは著名なユダヤ  
人芸術家であるマルク・シャガールが白い磔刑(1938)、妄執(1943)、黄色い磔刑(1943)、出エジプ  
ト(1953-66)そして灰色の磔刑(1970)などの作品の中に取り込んでいます。

ラビ的伝統は、**イザヤ 53 章**はイエシュアのことを述べているのではなく、ユダヤ人のことだとひどい  
誤りを犯しました。**8節**に「『わたしの民』のそむきの罪のために打たれ」とあるので、これは正しくあ  
りません。一方で、クリスチャンのほとんどは多くの受難の僕の預言は確かにユダヤ人について語  
っていることを見過ごしています。実際に、これらの預言はイエシュア(42:1, 42:19, 49:3-7, 52:13,  
53:11)とイスラエル(41:8-9, 43:10, 44:1-2, 44:21, 48:20)とを均等に分けています。

イスラエルの名がどうしてある時はイエシュアを指し、またある時はユダヤ人を指すのでしょうか。答  
えは、イスラエルの名そのものは個人(ヤコブ)および民(ヤコブの息子たち)両方を指すのです。

神の僕は他者の代わりに苦しみを受け、贖いをもたらすのです。これは基本的にメシアとしてのイエ  
シュアご自身の役割なのです。しかしこれはまた主に従う者は皆そうなのです。私たち信者は皆「キ  
リストの苦しみの欠けたところを満たしている」(コロサイ 1:24)のであり、そして他者のために苦し  
みを受けるのです(II コリント 1:5)。同じように、諸国の民あるいは国家がそれを理解していなくともイス  
ラエル国家は諸国の代わりに苦しみを受けるのです。

クリスチャンが苦しみを受ける時、ある時は単にその個人の罪ゆえであります。ある時はその苦  
しみは神からのもので、贖いの効果を持つのです(I ペトロ 4:1,13,15-17)。イスラエルでも同じことが  
言えます。私たちの苦しみの多くは単に自身の罪からのものです。しかし一方では、イスラエルの苦  
しみのいくつかは神によって定められたものであり、世界の贖いのための執り成しの行為な  
のです。

ここでまた、イスラエルの苦しみは十字架と並行しています。イエシュアの贖いの死は人類に救い  
をもたらすのみならず、正義も要求されます。あなたがたがそれを受け入れるか拒否するかです。終  
わりの時に、神はイスラエルを諸国の前で「十字架につけられる」立場に置きます。各国は選択を  
強制されるのです。

世界の諸国は一つとなりイスラエルを攻撃します。各国はその攻撃に加わるか、中立を保つかイス  
ラエル側に立つかです。これは、各国は神から特別な恵みを受けるか、あるいは厳しく裁かれるか  
という機会となるのです。

各人にとって十字架が分岐線となるように、終わりの時にイスラエルに対する戦いが各国にとっての分岐線となるのです、すなわち神の契約に立つのか、あるいはそれに反するのか。諸国は全体としてこのテストに失格しますが、各国の中には残りの人々(レムナント)がいて忠実であり続けることを選ぶのです。